

あらゆる関係者が協働して流域全体で水害リスクを軽減させる

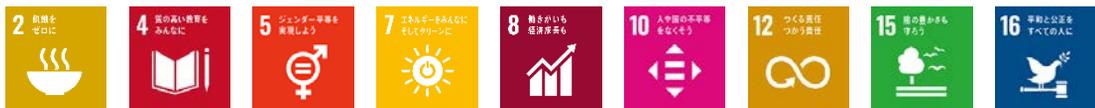
流域治水 (荒川水系 (東京ブロック) 流域治水協議会)

パートナー：市民、企業、行政（都・区・市・町）、
河川管理者（都・荒川下流河川事務所）



わたしたちは、近年の激甚な水害や、気候変動による水害の激甚化・頻発化に備えるため、持続可能かつ強靱なインフラ等として洪水・内水氾濫対策や貯留機能の向上を図り、自然災害に対する適応能力を強化しています。

また、わたしたちは、流域全体におけるあらゆる関係者が協働して水害を軽減させるため、さまざまなパートナーシップの構築を推進しているところです。



誰一人取り残さない防災減災を目指して



わたしたちは、流域治水を推進し氾濫域の水災害リスクを軽減することにより、持続可能な食料生産システム・エネルギーサービスなどの確保や、氾濫発生による感染症拡大防止など、住み続けられるまちづくり及び人々の防災意識の向上と国の経済成長に貢献しています。



橋梁の架け替えを実施し流下能力の向上を図る

特定構造物改築事業（京成本線荒川橋梁架替）

パートナー：京成沿線住民、堀切地区まちづくり推進協議会、企業（京成電鉄株式会社、株式会社建設技術研究所、JR東日本コンサルタンツ株式会社、株式会社トーニチコンサルタント、パシフィックコンサルタンツ株式会社）行政（東京都、墨田区、江東区、足立区、葛飾区、江戸川区）、荒川下流河川事務所



本プロジェクトは、京成本線荒川橋梁を堤防よりも高く架け替えることにより堤防を必要な高さまでかさ上げします。新橋梁は洪水時の水の流れを阻害しないよう橋脚を配置しています。

わたしたちは、パートナーシップを構築し、架替事業を推進することで、荒川下流域の氾濫域における水害の脅威から生命や財産を守ります。



わたしたちは、架替事業を推進し、氾濫域の水災害リスクを軽減することにより、持続可能なエネルギーサービスの確保や氾濫発生による感染症拡大防止など、住み続けられるまちづくり及び人と国の経済成長に貢献しています。



誰もが安全で快適に荒川下流部の河川を利用できるよう、他の利用者への心遣い・譲り合いの心を忘れないようにしましょう

河川敷利用ルール・船着場利用ルール

パートナー 河川敷利用：河川利用者、企業（（公財）河川財団、（一社）グッドチャリズム宣言プロジェクト）、沿川区市、所轄警察署、荒川下流河川事務所

船着場利用：船着場利用者、行政（東京都・埼玉県・沿川区市）、荒川上流河川事務所、荒川下流河川事務所



わたしたちは、「新・荒川下流河川敷利用ルール」を定め、マナーアップキャンペーン等を通じて、自転車事故防止など、誰もが安全で快適に利用できるように荒川下流部の河川敷の環境づくりに貢献しています。



マナーアップキャンペーン(板橋区)

荒川を愛する人たちが、お互いを尊重しあい安全かつ楽しく過ごせるように、みんなでマナーを良くしよう。みんなで、かわろう、あらかわ。「あらかわろう」を合言葉に、いまこそ！

わたしたちは、船舶が荒川を通航する際の守るべきルール「船舶の通航方法」、「荒川の緊急用船着場等利用ルール」を定め、河川の水深等を表示した航行図を公表し、船舶相互間の調整や河川環境の調和を図り、河川舟運の活性化に貢献しています。



なお、荒川における船舶の通航方法は「荒川通航ガイド」に掲載しています。





連携し良好な荒川の自然地維持管理に取り組む

荒川水辺サポーター

パートナー：企業や市民団体（21団体）、行政（足立区、江戸川区）、荒川下流河川事務所



現在、荒川の自然地では、ゴミの不法投棄や外来植物の繁茂等の問題を抱えており、それらは生物の生息・生育環境に悪影響与えています。

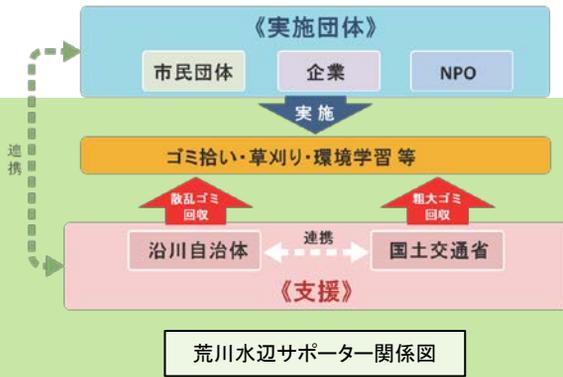
そこで、わたしたちは沿川自治体、企業・市民団体等と連携し、河川維持管理の取り組みとして、荒川水辺サポーター（荒川下流自然地アダプト制度）による活動を行っています。



水際に溜まった漂着ゴミ



セイタカアワダチソウ（外来種）



荒川水辺サポーターはゴミ拾い、外来植物の草刈り・草抜き、動植物の調査等を基本に各団体の特徴を活かした活動を実施する場であるとともに、活動とあわせて楽しみながら河川の生物の学習を行う場や、世代を超えた親睦を深める場として効果的なパートナーシップの推進及び海洋汚染の防止・削減に貢献しています。

活動成果は荒川下流河川事務所のホームページに掲載し、企業、市民団体の成果として広くPRしています。



クロベンケイガニ



オオヨシキリ

自然地の生物



ゴミ拾い



環境学習



草刈り・草抜き



活動後の集合写真

活動の様子

多様なパートナーと河川／海洋ごみ問題の解決を目指す

荒川クリーンエイド

パートナー：住民、市民団体、企業、教育機関（学校）、行政（都・県・市・区）、
荒川下流河川事務所

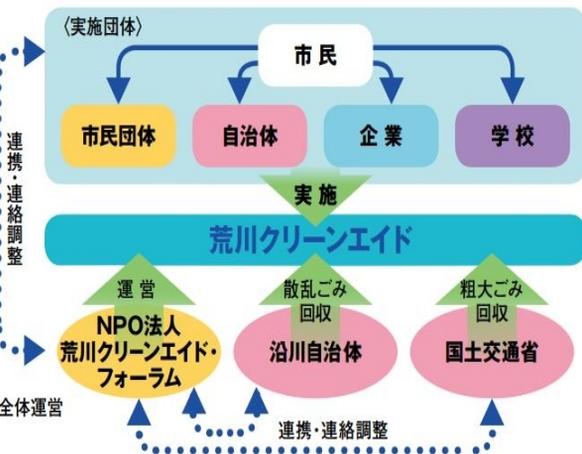


わたしたちは、人口や資産、社会経済活動の中核機能が集中する荒川下流部から、荒川クリーンエイドの活動を通じて世界共通の課題である河川／海洋ごみ問題解決を目指します。

取組みにあたっては、1994年より市民団体・企業・教育機関・自治体とのマルチセクターパートナーが継続されており、そのハブ機能としての役割を強化し、今後も継続的な活動を展開していきます。



わたしたちは、多様性を持った主体が荒川クリーンエイドの活動に参加することにより、企業がごみの出ない商品開発などの契機としたり、身近な水環境全国一斉調査に参加するなど、次世代育成の推進や総合的な水環境問題について、活動を通じて学べる複合的な場として貢献しています。



水防災意識の向上や自然環境等を学びともに成長する

アモア（荒川知水資料館）

パートナー：来館者、小中学校生徒及び教員、教育委員会（文京区、台東区、墨田区、江東区、北区、荒川区、板橋区、足立区、葛飾区、江戸川区、川口市、蕨市、戸田市）、連携教育機関、行政（墨田区、江東区、北区、荒川区、板橋区、足立区、葛飾区、江戸川区、川口市、戸田市）、ボランティアスタッフ、水辺の楽校、企業（（公財）日本生態系協会他）、荒川下流河川事務所



アモア（荒川知水資料館）では、荒川の歴史、荒川下流域の水災害リスク、河川の生態系や水質などの自然環境、地球温暖化などを学ぶことができます。その学びから事前避難行動など適応能力を高め、荒川を中心とした持続可能な発展及び自然と調和したライフスタイルを考えます。館内はバリアフリー化、男女別・多目的トイレを設置し、来館が困難な子どもたちにはオンラインによる学ぶ機会を用意し、誰もが学び考えることができます。



企画展
(令和元年東日本台風)



企画展(カエル)

アモアでの学びは、オンラインによる学習支援活動、大学との連携、インフラツーリズム社会実験等を推進することで、流域を超えた多様な主体とのパートナーシップ構築へと進んでいます。さらに、ホームページ、Twitter、YouTubeの活用により、有効で透明性の高い情報発信に取り組んでいます。わたしたちは、パートナーとともに学びともに成長します。

